

<基本的な考え方>

「一人一人に合った学びを求め、様々なツールを活用しながらできるまでやる子を育てる。」

「やろうとする気を伸ばし、最後まで粘り強く取り組む子を育てる。」

<目指す学校像>

- ・みんなで作るみんなが楽しい学校。
- ・子供にとって自分の伸びを感じ、教職員にとってやりがいを感じ、保護者・地域にとって信頼のおける学校。

(1) 学校の教育目標

- ・よく考える子
- ・思いやりのある子
- ・元気な子

(2) 学校の教育目標を達成するための基本方針

ア 新たな学びの実現・探究学習に関する方針

新学習指導要領では、新しい時代に求められる資質・能力を子供たちに育み、これからの変革の時代に対応していくために必要な「生きる力」をより具体化し、育成を目指す資質・能力を、何を理解しどう使うか「生きて働く知識・技能」の習得、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養、の三つの柱に整理して育てていくことが示されている。

新学習指導要領を踏まえ、児童が質の高い学びができるよう授業改善していく。その授業改善の視点として、「主体的・対話的で深い学び」を実現していく。自ら問いや課題を見つけ、課題解決に向けて情報を収集・整理しながら、他者と協働し、自分の新たな考えを見出し深めていく探究学習を繰り返し行っていく。そうすることで、児童の柔軟な思考力や逞しい行動力を育成していく。さらに、協働的な学びとして、他者の多様な考えから自分の考えを新たに創造できるように、共有するだけに留まらない深い学びへと発展させていく。

個別最適な学びとして、児童一人一人に適した多様な学び方やセルフ・ラーニングができる児童を育成していく。その手立ての一つとして、タブレット端末を主体的に身近な道具として活用していく授業改善を行う。

① 学習者用デジタル教科書の効果的な活用。

必要な場面で適切な活用ができるように授業を組み立てる。

② コミュニケーションツールの有効的な活用。

Teams、One note、ミライシード等を活用し、自分の考えを深めたり、他者の考えを受容してさらに新たな考えを創造したりすることを通し、主体的・対話的で深い学びを実現する。

全ての児童の力を伸ばすために、低・中学年においては、「体験」や「遊び」を通して学んでいくなど、物事に対する好奇心や学習意欲を引き出すための授業スタイルの実践をする。「わかった。」「楽しい。」といった充実感を味わわせる工夫をする。

高学年においては、「課題解決力」「思考力」「表現力」を、探究学習の中で育成していく。仲間との協働を通じて、多様な考えを認め合い、自分の考えを深めながら新たな学びを見出し「あっ！そうか！」「もっと知りたい！」と探究心をもって粘り強く学ぶ児童を育成していく。

## イ 安心・安全に挑戦できる教育環境についての方針

すべての児童に教育の機会を保障し、その水準を確保するため教職員全員がその実施に責任をもって全うしていく。

まずは、児童が安心して教育活動に取り組めるよう、校内外の環境整備や安全管理を徹底して行う。そのために、毎月の安全点検を確実に行うことで、より安全な環境整備に取り組む。避難訓練では、毎月のめあてを明確にして行い、児童や教職員が命を守る意識を高めていく。

学習においては、新型コロナウイルス感染予防等により登校できない児童にも、家庭での学習を継続してできるよう学びの保障をする。そのために、タブレットを活用したオンラインを活用した学習やデジタル教科書等のデジタル教材を有効に活用し、基本的な知識の定着を図る。

児童が安心して教育活動を行うには、徹底した「いじめ防止対策」が必要不可欠である。生活指導主任を中心として、全教職員での取り組みを強化し最優先で取り組んでいく。また、いじめのみではなく、暴力行為・不登校・虐待等について、教育ダッシュボードやスクールライフノートを効果的に活用し、いち早く児童の心身の状態に気付き適切な対応をしていく。

## ウ 校務 DX（働き方改革）への取組についての方針

働き方改革の推進として、校務支援システム C4th 等の ICT を有効に活用することで会議・打ち合わせの時間短縮や削減を行う。さらに、ペーパーレス化に取り組み、情報のスリム化や印刷時間の削減により、ゆとりの時間を生み出していく。授業においては、デジタル教科書等の ICT を活用することで教材研究の効率化を図る。

また、教育ダッシュボードを活用し、担任一人だけではなく全教員で児童を見守っていく。児童についての情報をいち早く掘み情報共有することで、児童一人一人の悩みや困り感に適切に対応し早期解決に導くことができる。担任一人で抱え込んだり、担任一人で解決できないままになったり、ということを解消し、深い児童理解を実現していく。一人の教員の負担感を減らすことにつながり、教員の心身の負担を軽減していく。

校務分掌においては、役職により仕事の内容や軽重の違いはあるが、全教職員で児童の育成に取り組むため、分掌をより明確にして一人一人が責任をもって職務を全うできる組織作りを行う。そうすることで、数名に重い負担がかかることを防ぐとともに、一人一人が児童のより良い育成に向けて意識を高めることができる。ここでも ICT を活用し、それぞれの分掌の進捗状況等を、会議をもたなくても把握できるようにし、推進していく。

## エ コミュニティ・スクールに関する方針

地域での活動を通して、学校と保護者、地域住民が一体となって児童を健全に育成するために、社会に開かれた教育課程の理念を共有した、コミュニティスクールの推進を図る。また、学校運営の改善を図るため、教育活動等に関する内部評価や保護者、児童、学校運営協議会、学校関係者による評価などを実施し、学校運営協議会に諮り、改善点を精査し、解決に向けた具体的な活動に取り組む。

また、地域学校協働本部の設置を進め、学校運営協議会にも参加してもらうことで活性化を図り、学校支援体制を確立していく。

## オ 特色ある教育活動についての方針

本校は、特別支援教室やまぶき教室の拠点校であり、さらに令和 4 年度 4 月には、特別支援学級 4 組が開級した。その意義を深く受け止め、特別支援教育の推進に努めていく。

特別支援教室においては、巡回校との連携を密に取り、校内委員会の充実や、巡回指導教員の指導力向上に向けて、組織的に取り組んでいく。そして、通級児童のよりよい成長のため、管理職・担任・巡回指導教員で目標を明確に達成のための手立てを講じていく。

特別支援学級4組においては、児童一人一人の成育歴や発達に十分に配慮をし、管理職・担任・保護者、必要に応じて関係諸機関等との連携を密にしながら、児童を育成していく。また、できる限り各学年との交流も行い、児童同士で尊重し合う思いやりの心を育成していく。

次に、「中幡ファームプロジェクト」の推進である。コンセプト「地域と学校をつなぐ新しい畑」のもと、有志の地域住民から結成されたプロジェクトである。各学年で学習教材としての花や野菜を畑で育てているが、その土づくりや、植え方の指導、また1年生とは、「芋掘り大会」を一緒に行った。さらに、このプロジェクトを充実させるために、中幡小学校のホームページと、中幡ファームプロジェクトのホームページを連動させたり、学校だよりへの掲載で活動のアピールを図ったりする。担当教員を中心にして、年間計画を作成し、組織的に活動の輪を広げていく。

さらに、令和5年度「人権の花」運動に参加し、人権啓発運動の拠点として、人権の花を全校で育てていく。また、可能な限り中幡ファームプロジェクトとも連携しつつ、人権の花を育てていく。

鼓笛隊では、令和4年度に地元地域の商店街において、初めてのパレードを実施した。本校では、地元地域の協力体制がとても充実しており、保護者の協力も得ながら実施することができる。今後も保護者・地域と連携しながら、地元地域での鼓笛隊パレードを本校の伝統として実践していく。計画や必要な手続きの仕方等をファイリングすることで、継続できるようにする。